2020年5月22日

【ニュースレター】

犯罪統計から捉える「コロナ禍と侵入窃盗」

「STAY HOME」には「SAVE HOME」効果も。住宅における侵入窃盗は大幅に減少

営業自粛や在宅勤務の影響か、「事務所」や「病院」等では被害増加の傾向あり

感染防止の基本は「３つの密を避けること」、防犯の基本は「３つの要素を揃わせないこと」

ＡＬＳＯＫは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新しい生活様式等が、防犯面においてどのような影響をもたらしたのかを探るため、警察庁の統計を分析するとともに、今一度確認しておきたい防犯対策をまとめました。防犯対策を見直すための参考情報としてご活用いただければ幸いです。

トピックス

- **「STAY HOME」が呼びかけられた３～４月、住宅における侵入窃盗の認知件数は前年同月比で約2割減少**

  ◆「STAY　HOME」中でも侵入されている！「忍込み」「居空き」に注意
  ◆ 地域別・都道府県別の住宅における侵入窃盗認知件数 増減率一覧を掲載
  ⇒ ３月、4月はほとんどの地域で減少していたものの、九州地方のみ大幅に増加

- **営業自粛や在宅勤務の影響？**
  無人期間が増えた「事務所」や「病院」などで侵入窃盗が増加

  ◆ 地域別・都道府県別　住宅以外の建物における侵入窃盗認知件数　増減率一覧を掲載
  ◆ 感染防止の基本は「３つの密を避けること」。犯罪防止の基本は「３つの要素を揃わせないこと」

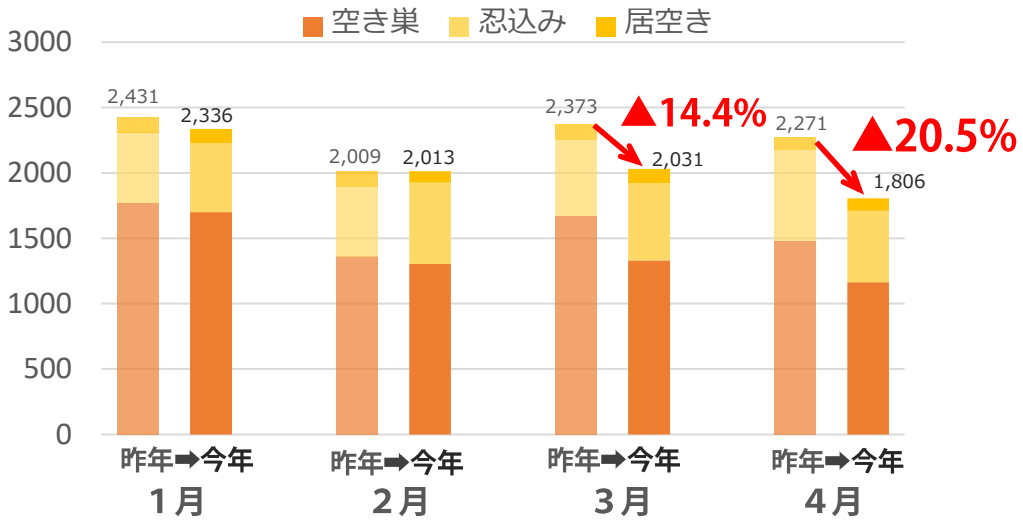
【参考】 新型コロナウイルス感染症をめぐる主な動き

2019年12月	中国の武漢市で発生確認
2020年1月16日	国内初の感染者確認
2月5日	「ダイヤモンド・プリンセス号」の船上隔離開始（神奈川県）
2月13日	国内初の死者確認
2月27日	北海道で小中学校の臨時休校開始 首相が全国の学校に臨時休校を要請
3月12日	WHOが「パンデミック」認定
3月25日	東京都知事が緊急会見で「STAY　HOME」を呼びかけ
4月7日	政府が緊急事態宣言を発出（7都府県対象）
4月16日	緊急事態宣言の対象を全国に拡大
（5月4日	5月末まで緊急事態宣言延長決定）

「STAY HOME」が呼びかけられた３～４月、住宅における侵入窃盗の認知件数は前年同月比で約2割減少

警察庁の統計によると、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために不要不急の外出の自粛が求められていた今年３月から４月にかけて、住宅における侵入窃盗の認知件数が前年同月よりも大幅に減少していました。同認知件数は例年減少傾向にあるものの、平均的な減少幅（▲9.6%）よりも大きな下げ幅となっており、例年より自宅を空ける人が少なかったことが影響していると考えられます。

1月～４月の住宅における侵入窃盗認知件数（前年比）



出典：警察庁「令和2年 犯罪統計資料」(1月～4月各月の発表から数値を算出)

3月以降、例年を上回るペースで認知件数が減少している。
※過去3年間の住宅における侵入窃盗減少率の平均は▲9.6%／年。

◆STAY　HOME中でも侵入されている！「忍込み」「居空き」に注意

住宅における侵入窃盗は、家人等の不在時に侵入される「空き巣」、夜間就寝中に侵入される「忍込み」、在宅中の食事等の隙に侵入される「居空き」の３つに分類されます。

感染予防のために自宅で過ごす人が多かったこともあってか、**「空き巣」は大幅に減少（▲約20%）していますが、「忍込み」と「居空き」は前年と同程度発生しています。**

「在宅中であっても、泥棒は侵入してくる」という認識を持ち、**「窓や扉の施錠の徹底」、「ガラス周りの防犯強化」、「在宅中も警戒可能なホームセキュリティシステムの導入」**といった対策を講じましょう。

また、学校の休校に伴い留守番していた児童の家に泥棒が侵入し、鉢合わせとなる事例が愛知県で発生しました。お子様に留守番を任せる際には、前述した対策に加え、緊急時の駆け込み先や連絡方法を決めておきましょう。

◆地域別・都道府県別　住宅における侵入窃盗認知件数　増減率一覧

地域別で見ても、外出自粛ムードの高まった３月から4月は、多くの地域で前年同月の認知件数を下回りました。
しかし、九州地方だけは、2月以降、前年を大幅に上回る状態が続いており、他の地域と違う傾向が見てとれます。

		2019年　認知件数				2020年　認知件数				前年同月比			
		1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
北海道		68	58	86	57	45	45	36	41	66.2%	77.6%	41.9%	71.9%
東北	計	156	139	168	154	157	76	89	120	100.6%	54.7%	53.0%	77.9%
	青森	4	12	6	2	8	1	8	11	200.0%	8.3%	133.3%	550.0%
	岩手	31	11	3	4	6	0	4	6	19.4%	0.0%	133.3%	150.0%
	宮城	36	46	72	73	69	39	38	27	191.7%	84.8%	52.8%	37.0%
	秋田	5	7	2	1	2	3	1	5	40.0%	42.9%	50.0%	500.0%
	山形	12	17	15	11	21	12	3	5	175.0%	70.6%	20.0%	45.5%
	福島	68	46	70	63	51	21	35	66	75.0%	45.7%	50.0%	104.8%
北関東・甲信	計	287	263	291	329	266	245	252	223	92.7%	93.2%	86.6%	67.8%
	茨城	136	108	102	195	85	134	102	90	62.5%	124.1%	100.0%	46.2%
	栃木	50	43	59	43	57	38	54	29	114.0%	88.4%	91.5%	67.4%
	群馬	54	60	75	49	48	34	36	54	88.9%	56.7%	48.0%	110.2%
	山梨	23	28	19	23	45	21	37	21	195.7%	75.0%	194.7%	91.3%
	長野	24	24	36	19	31	18	23	29	129.2%	75.0%	63.9%	152.6%
南関東	計	655	532	773	687	797	637	605	497	121.7%	119.7%	78.3%	72.3%
	埼玉	170	148	213	131	166	158	194	181	97.6%	106.8%	91.1%	138.2%
	千葉	189	134	185	199	209	193	162	103	110.6%	144.0%	87.6%	51.8%
	東京	166	153	176	174	204	149	117	127	122.9%	97.4%	66.5%	73.0%
	神奈川	130	97	199	183	218	137	132	86	167.7%	141.2%	66.3%	47.0%
北陸	計	48	72	116	88	60	44	66	63	125.0%	61.1%	56.9%	71.6%
	新潟	22	30	48	43	24	20	27	24	109.1%	66.7%	56.3%	55.8%
	富山	5	10	33	14	14	4	8	15	280.0%	40.0%	24.2%	107.1%
	石川	15	18	22	22	17	14	17	13	113.3%	77.8%	77.3%	59.1%
	福井	6	14	13	9	5	6	14	11	83.3%	42.9%	107.7%	122.2%
東海	計	422	301	305	287	382	268	341	241	90.5%	89.0%	111.8%	84.0%
	岐阜	72	49	48	75	58	45	82	35	80.6%	91.8%	170.8%	46.7%
	静岡	71	45	56	39	57	43	44	48	80.3%	95.6%	78.6%	123.1%
	愛知	228	164	159	139	199	119	156	124	87.3%	72.6%	98.1%	89.2%
	三重	51	43	42	34	68	61	59	34	133.3%	141.9%	140.5%	100.0%
近畿	計	335	278	281	283	303	238	255	174	90.4%	85.6%	90.7%	61.5%
	滋賀	22	13	25	24	15	19	20	24	68.2%	146.2%	80.0%	100.0%
	京都	31	23	32	31	35	23	21	25	112.9%	100.0%	65.6%	80.6%
	大阪	141	89	103	96	136	100	114	44	96.5%	112.4%	110.7%	45.8%
	兵庫	115	135	91	85	84	70	73	62	73.0%	51.9%	80.2%	72.9%
	奈良	18	8	24	34	22	24	19	6	122.2%	300.0%	79.2%	17.6%
	和歌山	8	10	6	13	11	2	8	13	137.5%	20.0%	133.3%	100.0%
中国	計	120	107	111	131	80	93	76	75	66.7%	86.9%	68.5%	57.3%
	鳥取	3	4	10	6	1	7	10	0	33.3%	175.0%	100.0%	0.0%
	島根	1	4	4	7	7	6	4	4	700.0%	150.0%	100.0%	57.1%
	岡山	34	35	49	39	26	19	15	17	76.5%	54.3%	30.6%	43.6%
	広島	64	48	34	61	23	47	32	38	35.9%	97.9%	94.1%	62.3%
	山口	18	16	14	18	23	14	15	16	127.8%	87.5%	107.1%	88.9%
四国	計	73	56	64	57	35	52	50	43	47.9%	92.9%	78.1%	75.4%
	徳島	4	7	4	7	5	7	3	2	125.0%	100.0%	75.0%	28.6%
	香川	26	14	14	13	14	17	17	16	53.8%	121.4%	121.4%	123.1%
	愛媛	32	20	41	28	10	21	23	19	31.3%	105.0%	56.1%	67.9%
	高知	11	15	5	9	6	7	7	6	54.5%	46.7%	140.0%	66.7%
九州	計	267	203	178	198	211	315	261	329	79.0%	155.2%	146.6%	166.2%
	福岡	177	116	97	121	129	193	161	248	72.9%	166.4%	166.0%	205.0%
	佐賀	14	8	9	7	10	48	19	13	71.4%	600.0%	211.1%	185.7%
	長崎	4	7	8	7	2	5	8	6	50.0%	71.4%	100.0%	85.7%
	熊本	13	18	16	15	19	19	19	10	146.2%	105.6%	118.8%	66.7%
	大分	6	10	7	4	9	8	1	9	150.0%	80.0%	14.3%	225.0%
	宮崎	13	10	9	11	9	11	12	15	69.2%	110.0%	133.3%	136.4%
	鹿児島	16	17	20	26	19	18	15	12	118.8%	105.9%	75.0%	46.2%
	沖縄	24	17	12	7	14	13	26	16	58.3%	76.5%	216.7%	228.6%
全国総数		2,431	2,009	2,373	2,271	2,336	2,013	2,031	1,806	96.1%	100.2%	85.6%	79.5%

出典：警察庁「令和2年 犯罪統計資料」(1月～4月各月の発表から数値を算出)

営業自粛や在宅勤務の影響？
無人期間が増えた「事務所」や「病院」などで侵入窃盗が増加

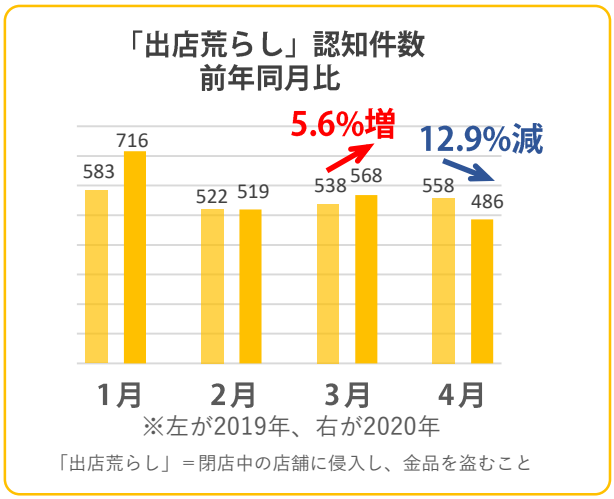
住宅以外の施設における侵入窃盗認知件数の推移を表したのが、下のグラフです。

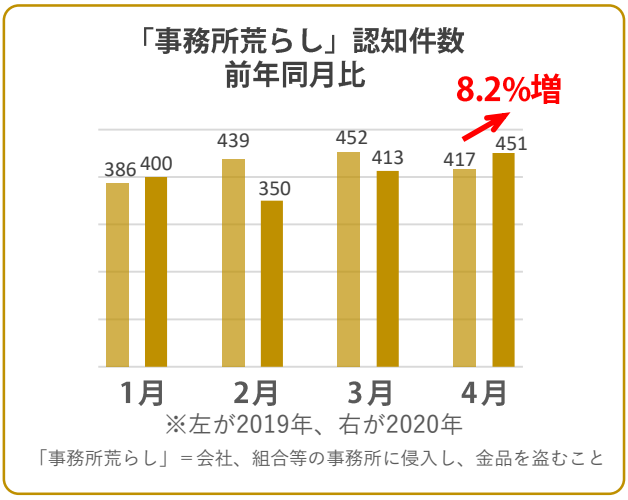
営業自粛中の店舗が侵入窃盗の被害に遭ったという報道をよく目にしましたが、「出店荒らし」の認知件数を見ると、外出自粛の声が高まった3月は前年比で増加し、4月には減少している様子が見てとれます。

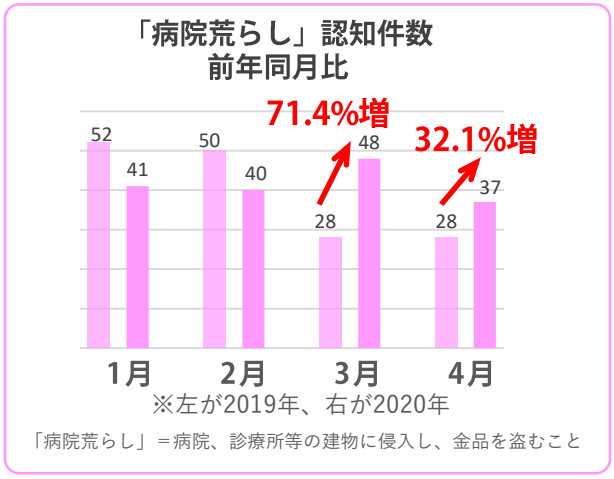
緊急事態宣言発令後は、各企業で在宅勤務を導入する動きが盛んになりました。4月に「事務所荒らし」の件数が増えているのは、無人となるオフィスが増えたことが影響しているのかもしれません。

また、感染症治療の最前線である病院がマスク等の医療用品の盗難に遭うという報道もありましたが、「病院荒らし」の件数も前年を大幅に上回っています。

出典：警察庁「令和2年 犯罪統計資料」
（1月～4月各月の発表から数値を算出）

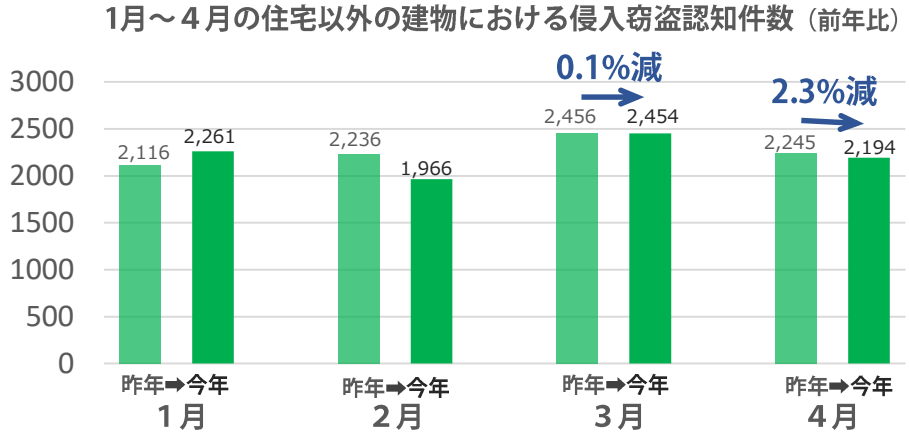






上と左の3種を含む、住宅以外の建物における侵入窃盗の認知件数の前年同月比を表したのが、下の緑色のグラフです。

住宅と比べると目立った増減は見られませんが、住宅以外での侵入窃盗の認知件数が毎年約８％ずつ減少している近年の傾向を鑑みると、減少のペースが鈍化していると言えます。



ほぼ前年並みだが、直近３年間における認知件数の減少率（▲8.0%／年）を鑑みると、減少ペースが鈍化している。

◆地域別・都道府県別　住宅以外の建物における侵入窃盗認知件数　増減率一覧

3月以降、全国的には前年と同程度の認知件数でしたが、大きく増加している地域と減少している地域があり、傾向が分かれている様子が見てとれます。特に北海道・東北地方で顕著な増加が見られました。

		2019年　認知件数				2020年　認知件数				前年同月比			
		1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月	1月	2月	3月	4月
北海道		70	65	73	84	80	65	113	91	114.3%	100.0%	154.8%	108.3%
東北	計	158	150	174	167	184	130	245	239	116.5%	86.7%	140.8%	143.1%
	青森	5	26	9	19	45	31	21	25	900.0%	119.2%	233.3%	131.6%
	岩手	11	8	5	11	6	11	11	10	54.5%	137.5%	220.0%	90.9%
	宮城	58	62	100	36	38	40	62	133	65.5%	64.5%	62.0%	369.4%
	秋田	4	3	12	10	13	3	13	9	325.0%	100.0%	108.3%	90.0%
	山形	15	3	7	16	43	7	81	13	286.7%	233.3%	1157.1%	81.3%
	福島	65	48	41	75	39	38	57	49	60.0%	79.2%	139.0%	65.3%
北関東・甲信	計	213	287	307	255	257	286	289	293	120.7%	99.7%	94.1%	114.9%
	茨城	67	99	112	92	110	107	90	77	164.2%	108.1%	80.4%	83.7%
	栃木	36	67	61	68	50	64	42	89	138.9%	95.5%	68.9%	130.9%
	群馬	47	69	52	25	63	65	81	69	134.0%	94.2%	155.8%	276.0%
	山梨	12	10	19	26	12	8	29	5	100.0%	80.0%	152.6%	19.2%
	長野	51	42	63	44	22	42	47	53	43.1%	100.0%	74.6%	120.5%
南関東	計	551	483	575	576	581	547	671	507	105.4%	113.3%	116.7%	88.0%
	埼玉	136	134	159	128	194	199	206	209	142.6%	148.5%	129.6%	163.3%
	千葉	141	123	162	134	110	125	182	108	78.0%	101.6%	112.3%	80.6%
	東京	180	153	145	174	194	137	165	119	107.8%	89.5%	113.8%	68.4%
	神奈川	94	73	109	140	83	86	118	71	88.3%	117.8%	108.3%	50.7%
北陸	計	48	75	128	92	74	62	96	67	154.2%	82.7%	75.0%	72.8%
	新潟	21	44	56	32	44	24	44	33	209.5%	54.5%	78.6%	103.1%
	富山	17	12	41	16	4	20	15	18	23.5%	166.7%	36.6%	112.5%
	石川	7	7	23	29	16	11	18	13	228.6%	157.1%	78.3%	44.8%
	福井	3	12	8	15	10	7	19	3	333.3%	58.3%	237.5%	20.0%
東海	計	330	330	285	328	332	278	327	311	100.6%	84.2%	114.7%	94.8%
	岐阜	76	31	61	44	41	42	76	50	53.9%	135.5%	124.6%	113.6%
	静岡	41	72	53	63	56	38	56	55	136.6%	52.8%	105.7%	87.3%
	愛知	180	189	121	186	172	124	136	135	95.6%	65.6%	112.4%	72.6%
	三重	33	38	50	35	63	74	59	71	190.9%	194.7%	118.0%	202.9%
近畿	計	327	320	348	303	360	253	355	316	110.1%	79.1%	102.0%	104.3%
	滋賀	19	21	26	23	22	18	16	25	115.8%	85.7%	61.5%	108.7%
	京都	24	33	26	29	29	17	39	32	120.8%	51.5%	150.0%	110.3%
	大阪	127	130	136	119	151	107	150	114	118.9%	82.3%	110.3%	95.8%
	兵庫	107	110	115	93	117	76	100	96	109.3%	69.1%	87.0%	103.2%
	奈良	25	17	20	26	24	26	35	29	96.0%	152.9%	175.0%	111.5%
	和歌山	25	9	25	13	17	9	15	20	68.0%	100.0%	60.0%	153.8%
中国	計	85	117	167	109	73	90	74	84	85.9%	76.9%	44.3%	77.1%
	鳥取	3	3	3	10	5	8	5	9	166.7%	266.7%	166.7%	90.0%
	島根	6	12	32	3	8	13	6	21	133.3%	108.3%	18.8%	700.0%
	岡山	29	40	58	27	26	24	30	17	89.7%	60.0%	51.7%	63.0%
	広島	31	45	46	37	20	20	18	22	64.5%	44.4%	39.1%	59.5%
	山口	16	17	28	32	14	25	15	15	87.5%	147.1%	53.6%	46.9%
四国	計	99	93	76	80	55	43	65	63	55.6%	46.2%	85.5%	78.8%
	徳島	6	10	15	4	20	9	9	18	333.3%	90.0%	60.0%	450.0%
	香川	22	12	9	15	10	13	11	14	45.5%	108.3%	122.2%	93.3%
	愛媛	51	52	44	39	13	13	27	27	25.5%	25.0%	61.4%	69.2%
	高知	20	19	8	22	12	8	18	4	60.0%	42.1%	225.0%	18.2%
九州	計	235	316	323	251	265	212	219	223	112.8%	67.1%	67.8%	88.8%
	福岡	110	172	172	135	103	106	91	102	93.6%	61.6%	52.9%	75.6%
	佐賀	16	18	15	6	17	17	25	9	106.3%	94.4%	166.7%	150.0%
	長崎	18	16	23	13	13	8	15	15	72.2%	50.0%	65.2%	115.4%
	熊本	16	31	36	20	22	10	21	25	137.5%	32.3%	58.3%	125.0%
	大分	16	17	10	13	22	4	17	20	137.5%	23.5%	170.0%	153.8%
	宮崎	17	6	20	14	50	26	17	15	294.1%	433.3%	85.0%	107.1%
	鹿児島	23	21	32	27	25	23	17	14	108.7%	109.5%	53.1%	51.9%
	沖縄	19	35	15	23	13	18	16	23	68.4%	51.4%	106.7%	100.0%
全国総数		2,116	2,236	2,456	2,245	2,261	1,966	2,454	2,194	106.9%	87.9%	99.9%	97.7%

出典：警察庁「令和2年 犯罪統計資料」(1月～4月各月の発表から数値を算出)

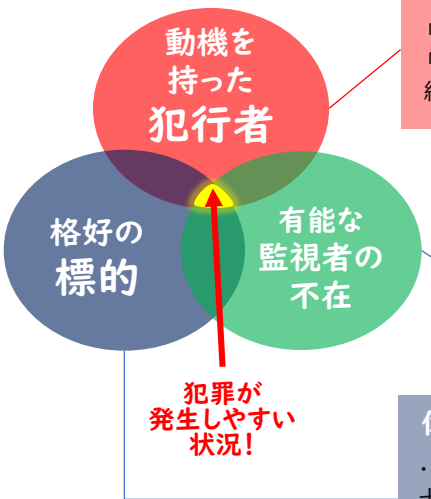
◆感染防止の基本は「“3つの密”を避けること」
犯罪防止の基本は「“３つの要素”を揃わせないこと」

犯罪発生のメカニズムを説明する「日常活動理論（※1）」によると、**犯罪は、「ある時間／空間において、『①動機を持った犯行者』『②格好の標的』『③有能な監視者の不在』という3要素が重なり合うときに発生しやすくなる」**とあります。この①～③は**「犯罪発生の３要素」**とも呼ばれ、犯罪予防の基本的な考え方として活用されてきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、「密閉」「密接」「密集」のいわゆる“３密”の状態を避ける取り組みが各所で行われたことで、ご存知のとおり成果として表れました。

犯罪についても同様に、「犯罪発生の３要素」を特定の時と場所に揃わせないよう働きかけることで、予防効果が期待できます。

※１「日常活動理論（＝Routine Activity Theory）」：1970年代後半、アメリカの犯罪学者マーカス・フェルソンとローレンス・コーエンによって主張された理論。



▼コロナ禍における侵入窃盗発生の3要素と対策例

侵入窃盗犯

「窃盗発生率」と、「完全失業率」「貧困率」「GDP（減少率）」は、統計上、正の相関関係にある（※2）

侵入窃盗犯の心理

・目撃、通報されたくない
・犯行の証拠を残したくない
・確実に金品を窃取したい

外出自粛で閑散とした街

・第三者が犯行現場を目撃、通報する可能性が低い。
・マスク着用により人相を記憶・記録されにくい。

監視者がいると思わせる

‣監視カメラの設置
‣侵入者を検知・通報できる機械警備システムの設置（警備会社のステッカーを掲示）

休業中の店舗・オフィス等

・従業員が出勤してこないので、十分に内部を物色できる。
・長期不在により、犯行の覚知が遅くなる。

標的とみなされないようにする

‣物理的に侵入困難と思わせる
‣定期的に人が来ると思わせる（ゴミの散乱などはNG）
‣店内に金品はないと掲示する

※2「失業率と犯罪発生率の関係−時系列および都道府県別パネル分析（大竹文雄・小原美紀）」、「治安に影響を与える要因の統計分析について（山口寛峰ほか）」より。

犯行を目撃、通報されることを恐れる侵入窃盗犯は、現場付近を行き交う通行人や近隣住民の視線を嫌います。外出自粛要請や休業要請により街の「人の目」が減っていたコロナ禍中は、犯行者にとって都合のよい状態であったと考えられます。

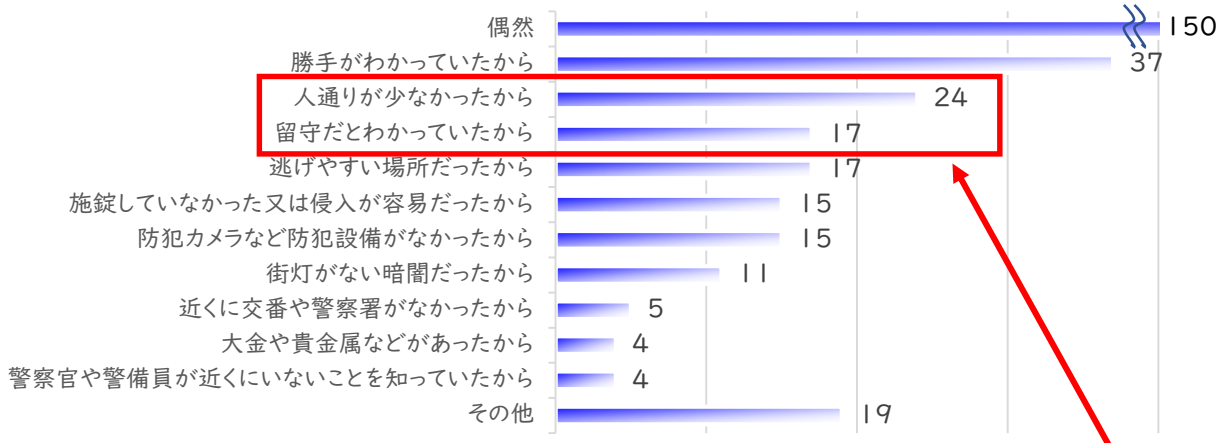
第三者による発見、通報が期待できない状況では、各施設で自衛手段を講じることが求められます。監視カメラは犯行の証拠を残せることで抑止効果がありますが、マスクの着用が一般的となっている現在、十分な効果を発揮できない可能性があるので過信は禁物です。

機械警備システムは、警備会社のステッカーによる抑止効果が期待できることに加え、万が一侵入があった際には自動通報され直ちにガードマンや警察が駆け付け、被害を最小に抑えることができます。

また、「しばらく誰も来ていない（当分誰も来ないだろう）」と確信できるような状態は好ましくありません。店舗周辺のゴミの散乱や掲示物の劣化などの異常が放置されないよう、近隣店舗の方と協力するなどして、見回りをこまめに実施することも大切です。

【参考資料】 窃盗犯の心理

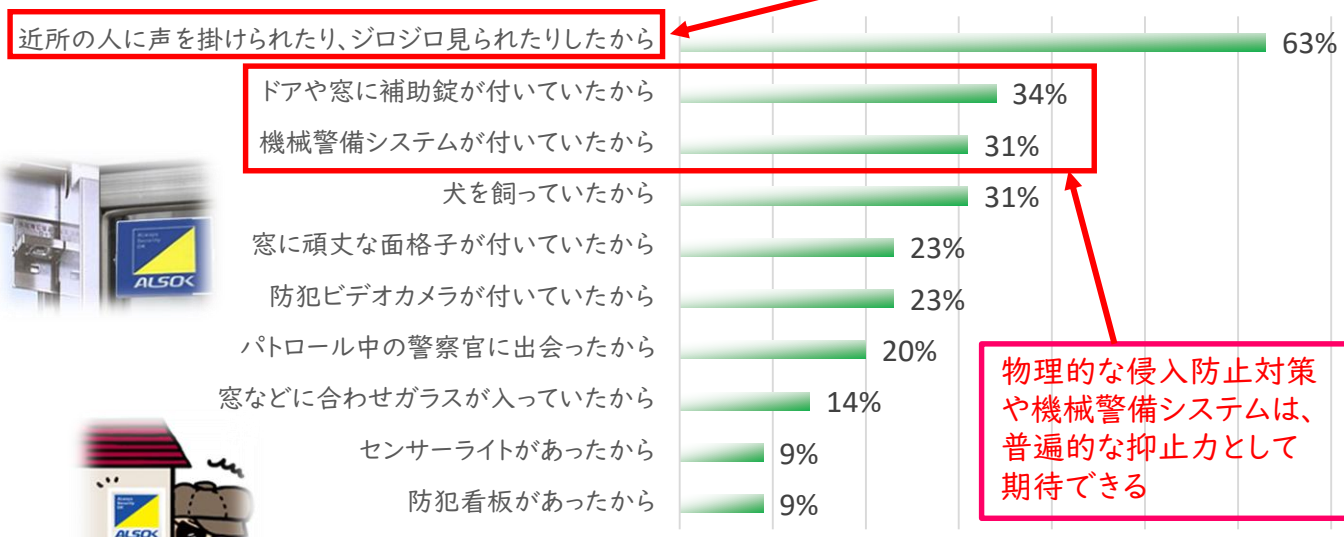
窃盗犯 犯行場所の選定理由 n=239（複数回答）



出典：（社）日本都市計画学会 都市計画報告集No.8
「犯罪者の視点から見た防犯環境設定の有効性の検討
―全国の被収容者を対象とした質問紙調査報告―」

外出自粛、臨時休業の状況下は、侵入窃盗犯にとって好機であった

窃盗犯が犯行をあきらめた理由



物理的な侵入防止対策や機械警備システムは、普遍的な抑止力として期待できる

出典：(財)都市防犯研究センター JUSRIリポート

【参考資料】 ＡＬＳＯＫの商品サービス紹介

事務所や店舗を守り、スマホ等で現地のライブ画像を確認可能

【ＡＬＳＯＫ－Ｇ７（ジーセブン）】

在宅勤務などにより無人となる事務所や店舗に画像センサー等を設置し、いざという時にはＡＬＳＯＫのガードマンが駆けつけます。また、ライブ画像確認機能により、スマートフォンやパソコンから遠隔で現地のライブ画像を確認できるため経営者様や管理者様に好評です。

【トピックス】
短期の休業期間における防犯対策として期間限定「短期間機械警備」の提供を開始しました。
詳しくは→ https://www.alsok.co.jp/corporate/alsok_guardsystem/tanki-keibi.pdf

画像センサー

商品詳細 https://www.alsok.co.jp/corporate/alsok_guardsystem/alsok-g7.html

自宅の防犯対策の決定番「ＡＬＳＯＫホームセキュリティ」

空き巣対策に最も高い効果を発揮するサービスといえば、「ホームセキュリティ」でしょう。自宅に各種センサーを簡単設置することで、ALSOKが24時間365日、お客様に代わって自宅を見守ります。何かトラブルがあってもすぐに訓練を受けたＡＬＳＯＫのガードマンが駆けつけて対処・報告してくれるので、お子様が留守番中の様々な不安も解消してくれて安心です。

また、火災が心配な場合は、火災センサーを設置することで、万が一の際、ガードマンが駆けつけるとともに、119番など関係機関への通報も行います。価格も月々3,500円（税別）からとお手ごろな設定になっています。

【トピックス】
感染症拡大防止対策として、ホームセキュリティ導入時の現地打合せ不要・工事不要を可能にした特別プランの提供を開始しました。詳しくは→ https://www.alsok.co.jp/lp/hs09/index.pdf

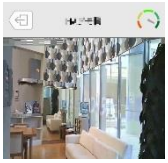
ホームセキュリティBasic

マンションや戸建てなど、日本の一般家庭に最適な、万能型のセキュリティシステム。

商品詳細 http://www.alsok.co.jp/person/homealsok/

外出先からスマホでご自宅の様子を確認できる　家庭用防犯カメラ

HOME ALSOK アルボeye



HOME ALSOKアルボeyeは、お客様自身でご自宅等を見守る「セルフセキュリティ」商品です。

外出先からスマートフォン等を使用してご自宅の様子を確認したり、「動体検知」機能により、子供の帰宅をメールで受け取るなど留守番中の子供の見守りで活用する事例が増えています。

ＡＬＳＯＫオリジナルステッカー付き
（約12cm×3.5cm）

商品詳細 https://www.alsok.co.jp/person/alboeye/